

諦崇寺報

諦崇寺 発行
 藤井崇文 編集
 〒631-0065
 奈良市鳥見町
 2丁目28-10
 0742(37)2569
 taisouji.jp



修証義の「ことば」①

「法事や彼岸会でお唱えする『修証義』は、曹洞宗を開かれた道元禪師さまの『正法眼蔵』が元となっている。」

「正法眼蔵」では、今この眼前にある現象世界をそのまゝ悟りの世界と見る「現成公案」の善など哲学としての仏教が記されたながら「洗面」や「行持」といった生活に根差した仏教も説かれています。哲学や「悟り」というと何か遠くごとのように感じてしまいますが、仏さまとしての日々を過ごす修行は悟りとはまた「一体である」との「修証一如」の教えが根底にあります。

一 生死

私たちは忙しい日々を追われて、精一杯で過ごしているからか、今ここにある目の前だけを見て右往左往してしまっています。

そうであってはいけなく、迷いから離れて欲しい、それが仏さまの切なるお心です。

人が亡くなると思しい、悔しい思いが募ります。けれども考えてみれば、亡くなるのが出来るのは、生まれたからです。生まれて周りを喜ばせ、成長して周りを嬉しくして、人を助け人に助けられて毎日を重ね、ちがて亡くなるまで。

先勝・友引・先負・仏滅・大安・赤口という六曜の中で仏滅は良くない日と思われていますが、仏教においてはお釈迦さまが生まられたことを証するといふ意味で、むしろ尊ぶべき日と考えます。

私たちはゆくゆく川の流れを早めたの止めようとは考えません。同じように生や死や病や老いを追いつめたり、「生死」を無理矢理に「生」と「死」に分けて対立する概念でとらえようとしてはいけません。

さかさまに言えば、命には二つの命があります。「生物学的な命」と「伝える命」です。「生物学的な命」は死を避けられません。反対に「伝える命」は伝えられた人が次の人に伝えていく限り、無くなることも死ぬこともありません。

私の母は今年で17回忌を迎えますが、今になっても私の耳元で「下つち引き出しを開いたら開める」「(照明を)点けたら消す」「(水を出したら止める)」「(皿)が落ちていたら拾う」「(服を)脱いだら洗濯機に入れる」と聞こえてきます。

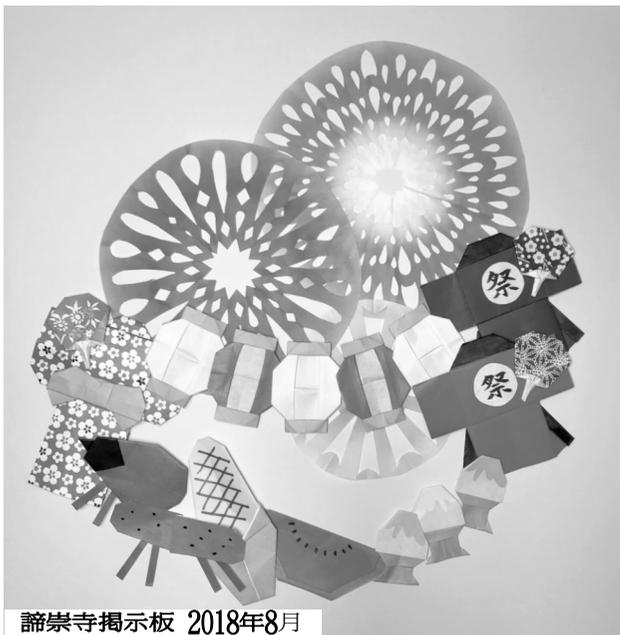
「ああ、親心は死んだらびりびりでは無くなるんだなあー」と教えられると、時空を貫く母の親心、「伝えられた命」を有る難く感じます。そして私も伝えなければならぬと深く思います。

もちろん行政の責任もあります。警報の出し方だったり、設備を準備していなかったり。その行政を監督してこなかった私たち市民、社会全体としての責任があります。まったく自分に責任が無いのに命を奪われた方もおられました。

小さな子供さんが亡くなったニュースも多く報じられましたが、つらく見られませんでした。大人の責任を果たせなかった一人として恥ずかしく苦しいです。

とにかく命を落とされた方を責めることは出来ません。けれど、報道なり行政なりの批判を怖れてハッキリとは言ってくれません。「どうして自分の命を自分で守らなかったのか」と。

いざ危険が迫るとどうしても冷静な判断が出来ません。冷静に考えれば避難すべきであっても、



諦崇寺掲示板 2018年8月

自分の命は自分で守る

6月に大阪北部で地震、7月に西日本の広域で水害、各地で災害が続きました。報道に接すると、悲しきや悔しきと共に憤りの気持ちを抱いてきます。「なぜ命を守れなかったのか」と。

「今まで無かったから」「今は大丈夫だから」「そして」「迷惑をかけたくな」「と言いつつ、言いつつ、言いつつ、現実を直視しなごなりませぬ。

自分の命を自分で守ろうとする人は、自分の命を危険にさらすだけだなく、他者の命も危険にさらします。「迷惑をかけたくな」といふ言いつつ、かえって迷惑をかかざる結果となります。

社会が発展するためには、分業が必要である。歴史の授業で習いました。確かにそうだと思います。ただしそれが行き過ぎて、自分自身の命も誰か任せになってしまっているのではないのでしょうか。

先に逝かれた方が後に残された方に思うのはただ一つ、「死ぬな」だと思えます。「生きる」よりも死なずに生きた先で「元気で」や「幸せに」になるのだからと思うます。

一 透無閑大和尚

7月19日に大阪・栗東寺で、分家である龍海寺の27世住職、一透無閑大和尚の喪会(百回忌)が厳修されました。大本山永平寺



(左から)南澤道人老師、栗東寺・藤井浩宗住職

の副貫首、北海道・中央寺の南澤道人に任職さまに導師をお勤めいただきました。僧侶であり漢学者でもあった一透無閑大和尚は、栗東寺19世住職の拜請によって、山口県から大阪・龍海寺に入りました。私(藤井崇文)の高祖父(曾祖母の父)に当たります。

あとがき

子どもに引き算を教えるためにマイナスの話になり、思いがけず「算数は数字を使って見えないものを見えるようにするんだよ」と言ったところ、子どもははたか感動したみたいだ。とびつつか、言った後に自分で「そうなのかい」と驚きました。数学が得意でもない自分が偉そうなことを言ったものですね。

見えないものを見ようとする好奇心、見えないものをちゃんと見る謙虚さが大切ですね。崇文拝